

松が岡町会とのタウンミーティング

日 時 令和6年7月17日（水）19:00～20:30

会 場 市役所大会議室

テーマ 能美市の都市開発について

参加人数 34人

1) 開会

2) 松が岡町会長 ご挨拶

3) 市長 市政報告

○はじめに

・能登の復旧・復興を祈念するイルミネーションの点灯式を一昨日行った。輪島市の白米千枚田の「あぜのきらめき」で使用されているLED発光装置「ペットボトル」約2万個を借用し、根上総合文化会館の芝生広場いっぱいに表示している。7月下旬に開催する根上り七夕まつりの特別企画として、商工会青年部が中心になって取り組んでおり、七夕まつりということで、願いを込めた短冊も飾っている。ぜひ一度ご覧いただき、能登支援、能登の復旧・復興へ願いを込めていただきたい。

○能美市を取り巻く情勢と課題

・全国と同様に能美市も人口減少・少子高齢化となっている。社会インフラの老朽化では、特に市内の11小中学校で築50年以上が面積の35%を占めており、いかに長寿命化していくかが課題である。

・令和6年能登半島地震によって、市内でも罹災証明書の申請が約1300件出ている。緑が丘やその他のところでも、市道等が大きな被害を受けており、復旧に取り組んでいる。また、様々な能登への支援も行っており、避難者の受け入れや職員の派遣等、人的支援も続けている。

・ウェルビーイング指標によると、市民が市の弱みだと感じている部分は、「買い物・飲食」「遊び・娯楽」「移動・交通」であり、これらを高めようとしている。ただ、「遊び・娯楽」については、辰口丘陵公園やいしかわ動物園、手取フィッシュランド等があるのは、県内19市町の中で能美市だけであり、他にも陶芸村やフィールドアスレチック等もあるので、私はそれほど不足していないのではないかと考えている。「買い物・飲食」の部分では、市内にのみ商業協同組合加盟店舗が多くあり、また最近はドラッグストアやコンビニも増えているので、普段、生活をする上でそれほど不便を感じないのではないかと。

・事業・施策の7本柱を全て移住定住の促進に繋げるという方針で取り組んでいる。自治体の勢いを示す指標はいくつかあるが、私は人口が重要だと思っている。人口が維持又は増加できているということは、そのまちに興味がある人が多いということである。人口には自然増と社会増の二つの要素がある。亡くなる人よりも生まれてくる赤ちゃんが多いと自然増であり、引っ越しをする人よりも引っ越してくる人が多いと社会増となる。今、能美市は自然減・社会増で、人口が少し減っている状態である。いかに健康寿命を延ばすか、生まれてくる赤ちゃんを1人でも多く育んでもらうか、能美市の魅力を高め、ずっとこのまちに住んでもらえるようにするかが重要であり、都市開発に取り組んでいる。

・働く場所がないと能美市を選んでいただけないので、積極的に企業誘致に取り組んでいる。また戦略的に誘致することによって、様々な職種の働ける場所が増えている。能美市誕生以降、市外から35社を誘致、34社が工場を増設しており、皆さんが住んでいる場所の近くに働く場所が少しずつ増えている状況である。

・企業誘致は、働く場所が増えるということだけではなく、人口が増えることや、まちを元気にすること、市の税収が増えること等の効果ももたらしている。市の税収が増えることで、施策に使える財源が増える。令和元年に市税の収入が初めて90億円を超え、令和4年には過去最高額となり、令和5年は残念ながら90億円を超えなかったが、おかげさまで堅調に推移をしてきている。税収増加の要因は、企業誘致や地元の企業が好調だということにより、固定資産税や法人市民税が増えていることがあげられる。また、人口が増えていることで、市民税等も増えている。

・企業の従業員を確保するためには、住む場所が必要となる。能美市が誕生して以来、市全体で開発が進んでおり、現在は和光台5丁目や吉原釜屋町、末信町、道林町等、各地で宅地造成が行われ、お住まいになる方を募集している。

・これまでも大規模な宅地造成が行われてきており、旧寺井町では、寺井東部丘陵地を開発し、泉台がつくられた。住む場所の確保だけでなく、伝統工芸「九谷焼」の振興のために、九谷陶芸村をつくるということから開発が進み、7月1日現在で670世帯、1,700人余りの皆さんがお住まいになっている。

・今日は松が岡町会のタウンミーティングなので、松が岡がどのように誕生したかに触れると、昭和40年代の旧辰口町は全面積の約7割が丘陵山地であり、生産資源や住む場所に乏しかった。金沢と小松を結ぶ加賀産業開発道路ができることと東レの石川工場が進出することに伴い、宅地を確保していくということから、三つの柱「宅地分譲エリア」「学術研究エリア」「農業公園エリア」をもとに丘陵山地帯の開発が進んだ。

・住む場所だけではなく、買い物や飲食をする場所がほしいという市民の声を受け、企業誘致が進む福島グランパークの一角に新しい総合商業施設ができる。現在、出店する店舗の調整が始まっている。

・加賀産業開発道路のそばにある旧辰口フラワーハウスの跡地については、近くにいしかわ動物園や辰口丘陵公園があり、多くのお客さんの往来が見込めるということと能美市のお土産を一度に見て買うことができる場所が今は1か所しかないということから、道の駅機能を持った施設を作ろうと準備を進めている。

・子育て世代の皆さんは、住む場所・働く場所だけではなく、子どもを預ける場所や遊べる場所、相談をできる場所も必要であることから、保育園や児童館、休日に楽しめる場所等の充実を図っている。また、これまでは15の市立保育園しかなかったが、幼児教育を受けたい等の要望があり、まず福島こども園を民営化した。そこがモデルケースとなって、他のエリアにも私立保育園がほしいという声があり、現在、緑が丘保育園、湯野保育園を民営化し、新園舎建設を進めている。

・車の免許を持っていない方だけでなく、例えばお腹に子どもがいる方もなかなか買い物に行けないという声をお聞きしており、買い物弱者への対応を行っていく。また最近、一人暮らしの市民も増えており、このような課題に対して、デジタルの力を借りて地域共生社会を目指していこうと取り組んでいる。健康な人も高齢者も障害を持った人も子どもも外国人も、能美市に住んでいる全ての人が安全安心快適に暮らしていただこうという

のが地域共生社会である。英語で言うと、「インクルーシブ」といい、デジタルの力を使ってインクルーシブなまちを作っていこうと様々なことに取り組んでいる。例をあげると、デジタル公民館に取り組んでおり、公民館に行けば多世代間が交流できるような仕掛けを考えている。また、慢性疾患を持っている人は、薬をもらうのに月に1度、病院に行かなくてはならないが、公民館で「オンライン診療」を受けられるようにする。スマートフォンから自分が欲しいものを注文すると公民館に届けてくれる「スマート物流」等といったことを公民館を使って行おうとし始めており、まずは5つぐらいモデルケースを作って、様々な検証をしながら広げていこうと考えている

- ・移住アンバサダーの方たちが能美市の魅力を写真に撮って、インスタグラムで紹介をしてくれている。能美市の魅力をどんどん発信してもらうことで、市外の人や大都市圏の人たちに能美市を選んでもらうことに繋がる。また、市民の皆さんが市の魅力を再認識することで、ずっと能美市に住んでもらい、さらに自分たちが住んでいるまちを誇りに思い、自ら市のPRをしてもらえるよう繋げていきたいと考えている。

- ・いしかわサイエンスパークの開発がなかなか思うように進んでいないので、着手していかなくてはならない。そのほかにも開発をしなければならない箇所もあり、また、空き家や空き地をどのように活用して、能美市全体を発展・振興させていくかということに取り組んでいる。

4) 意見交換会

【参加者】能美市をウェルビーイングシティ、日本一居心地の良いまちにしていきたいという市長の目標は私と同じであるが、やり方が180度違う。市長は必要なことは、人口増であり、企業誘致をして、そこに勤める人を連れてきてもらい、そのために宅地開発をするとおっしゃったと思うが、誤りである。戦後の経済成長時代の発想であり、これを今、くり返そうとしたら失敗する。旧辰口町のキャッチコピー「緑と水と太陽の町たつのくち」に憧れて、私はこちらに移住してきた。現在、能美市のキャッチコピーは「したいこと、能美市だったら叶うかも」という何とでも取れるような表現となっている。昔のキャッチコピーは「自然環境を守ろう」という意図がはっきりしていたが、それを途中でやめるのか。私は、能美市の最も大きな資産は水だと思う。これは白山手取川ジオパークが世界遺産に認定されていること一致する。手取川の水の8～9割が、地下に潜っており、それを生命線として、能美市は企業誘致してきた。手取川扇状地の南半分は能美市なので、白山

市と一緒にジオパークを進めるぐらいの心構えがあつてしかるべきである。今からでも遅くないので、世界ジオパークに取り組んだ方が良い。

若い人の移住に必要なことは、新しい文化の発信である。唐突だが、綿の見直しをすべきだと考えている。かつてこの地区では、水田以外の畑で綿を栽培していたが、第一次世界大戦で全てなくなってしまった。これを今一度見直すべきである。そして、環境、SDGsと言われているが、これを具体的に実行していくことが必要である。一つの例としては、生ゴミを燃やすのではなくて、コンポスト化して有効利用することである。本来の資源リサイクルの技術で発酵、コンポスト化するということをぜひ提案したい。そのための技術的支援は惜しまない。能美市には様々な人材が多くいるので、その人たちを発掘し、結集させて、ぜひ“WBC” ウェルビーイングシティを実現してほしい。時間の関係で詳しい説明ができないが、以上が私の提案であり、市長からのお答えは不要だが、もし何か考えることがあれば参考にさせていただきたい。ぜひ一緒に能美市を住みがいのあるまちにしていきたいと思っている。

【市長】ありがとうございます。

【参加者】企業誘致によって、固定資産税が増えることは良いが、人口は4%しか増えていない。転勤族もいて、市内から通勤している人は少なく、小松や美川等、近郊から来ている人が多い。新しい宅地を造るのであれば、もともとある森ではなく、田んぼを造成して作ったら良いのではないか。田んぼを作りたい人はもうそんなにおらず、売りたいと思っている人が多い。夏にウォーキングをするとキツネやタヌキを見る。自然の山ができるにはすごい時間がかかるので、これ以上、山を崩してほしくない。

【市長】田んぼができるまでに開発や整備がされており、農振法や農地法の縛りがあるため、作っていないという理由で宅地や工場用地にすることがなかなか難しい。

【参加者】市長の努力により企業誘致で税収が上がったが、なぜか若い人たちは野々市や金沢等に行く。松が岡から東京の学校に行った娘はもうこんなところに帰ってこないと言っている。若い人の考え方は我々とは全然違う。

【市長】そういったことをいかに防ぎ、能美市に魅力を持たせるために取り組んでいる。

【参加者】先ほど、買い物や遊ぶ場所をもっと増やしてほしいと思っている市民が多いということを伺って、驚いた。おそらく能美市にもう少しあったら良いものは何かと考え、

出た結果なのではないかと思う。市長がおっしゃったとおり、能美市には動物園や遊園地等の遊ぶところがあり、陶芸村もあって文化も体験でき、住む場所もあり、川もあって海もあり、自然もあるので、本当に恵まれていて、これ以上望むところはあまりなく、そのような中で、あと何か望むとすれば、買い物だと思ったのではないかと思う。もしかしたら、お年寄りの方が交通が不便で、近くで買い物ができたらいいなと思われたのではないかと想像した。

デジタル公民館のアイディアはとても素晴らしいが、そういうことを実現している自治体が今、他にあるのか気になった。

山を開発するのであれば、いしかわサイエンスパークに既に用意してある土地があるので、そちらから手をつけ始めるのが先だと思う。自然の山は作ることが難しく、動物のすみかはどうなるのかという声が昨年のタウンミーティングで多かった。市長もいしかわサイエンスパークを進めていきたい、いかなければと思っていると話されていたかと思うが、未だにどうして難しいのか、具体的に県とどういう話をしてきたのか、する予定なのか等、市長がどのように話を進めたいと思っているのか聞かせていただきたい。

【市長】まず、ウェルビーイング指標については、主観的なデータと客観的なデータがある。おっしゃるとおり能美市にないようなお店を要望されているのではないかと考えており、そのようなお店を市内に誘致したいと考えているので、ディベロッパーと相談をしながら進めていきたい。

いろいろな自治体で様々なデジタルの取り組みを行っているが、公民館を使って具体的に行っている自治体はそんなに多くない。加えて、我々が今取り組んでいるのは、医療介護や高齢者、一人暮らしの方、買い物弱者を対象としており、日本の中では他に事例がないと聞いている。まさに先駆的な取り組みではないかと思っている。ただ、様々な課題があるので、モデルケースを作って課題を解決しながら、順次広げていきたいと思っている。もし松が岡で何か取り組みたいというご要望があれば、おっしゃっていただきたい。

サイエンスパークの件については、先端大と協力して製品を開発する、あるいは研究者を育てるという目的でサイエンスパークができたが、様々な理由でなかなか企業に選んでもらえないというのが実情である。サイエンスパークには自然災害が少ない、近くまで大容量の電気を持って来ることができる、設備が整っている等の利点があり、そういったことを要望する企業を誘致できないかとの1年間散々取り組んではいるが、なかなか選んでいただけない。県は、企業を誘致した後にセットで宅地開発をしたいと考えているの

で、まずは積極的に企業誘致を進めている。

【参加者】私が企業を作って手を上げたいと思うぐらいにもったいなく、悔しく感じる。景色も良くて、あそこで宅地開発が進めば、おそらくたくさんの方が魅力を感じるのではないかな。

【参加者】もう宅地開発の青写真が作られているのか。土地売買が進んでいるということを知っている。できるだけ環境保護をして、緑地を多くしていただきたい。

【市長】金沢大学の跡地に関しては、専門家のお話を聞き、アドバイスをいただきながら、考えていきたいと思っている。

【参加者】松が岡の木の多いところに住んでおり、木は大切だと思う。夜、風が涼しく、クーラーがなくても暮らせる。雑木林の木は1本も減らしてほしくない。

デジタル公民館の話はワクワクしたが、自分はスマホ関係に弱いので、教えていただくお助け小屋のようなものを作っていただければありがたい。

これから国の縛りが厳しくなるのではないかとと思っているが、「能美市なら叶うかも」と思えるような能美市にしていきたい。

【市長】ご自宅が松が岡のどの辺りなのかかわからないが、どんな影響があるか、一度確認してみたい。

公民館を使って、スマートフォンに慣れていない皆さんにもスマートフォンを使っているだけでいいようなセミナー等々を催し、利用できるよう後押しをしていきたいと思っている。

国の縛りはわからないが、国からの支援がないと我々のような自治体は、様々な施策を進めることができないという課題もあるので、決して言いなりになるつもりはないが、皆さんの期待に応えられるように、引き続き市の発展に取り組んでいきたい。

【参加者】夕方5時頃に川北大橋のところを通ると、能美市から出ていく車が多い。能美市の企業に勤めている従業員の方で、市内に住んでいる人が何人ぐらいいるのか調べたことはあるのか。

【市長】正確に調べたことはない。

【参加者】週に6回以上は、市外に買い物や食事に行っている。市外に住んでいて、能美市に通勤している方は、市外が住みやすいからそこに住んでいる。能美市を住みやすいよ

うに変えるとなると、インフラ整備にお金と時間がかかる。能美市の強みを生かし、住むところではなく、遊ぶ場所や自然を生かす場所にすれば良いと思う。

【市長】いかに遊ぶ場所や買い物をする場所を増やしていくかということに引き続き取り組んでいく。ただ、遊ぶ場所は先ほどご紹介したように既に多くあるのではないかと考えている。動物園や遊園地があり、北陸3県から人が訪れている。児童館も市民だけでなく、市外からの利用者も多い。能美市に現在ないような施設をいかに増やせるかということがポイントではないかと考えている。

【参加者】機会があれば、能美市に勤めている方の市内・市外に住む比率を調べていただきたい。

【参加者】前回のタウンミーティングは松が岡、和気、徳山にまたがる丘陵地の話が中心だったが、今日の講演で開発の話が出なかったということは、どう開発するかはつきりしていないということなのか、それとも開発するかどうかも含めて検討中なのか、詳しくお聞かせいただけると嬉しい。

いろいろ遊ぶ場所はあるが、ティーンエイジャーが遊ぶ場所が少ないと思う。ただ、映画館やファストフード店等を金沢みたいに作ろうとすると、インフラ整備が大変である。能美市は住むには良いところであり、遊びの部分を金沢ですますために辰口から行こうとすると駅も遠いので、車以外の交通手段がないことが不便である。まだ車を運転できるから良いが、年をとって免許を返納すると不便になるので、公共機関の充実を図っていただきたい。

【市長】金沢大学の跡地の件に関して、1年前と変わっている部分は、土地の購入を進めていることだけであり、具体的にどのような区分けをするかは、まだまだ先の話である。

公共交通に関しては、ライドシェアに取り組もうとしている。これまでは2種免許を持った人しか、人を乗せて移動できなかったが、タクシードライバーが不足していることから、全国的にライドシェアが広がっている。能美市でも、まずは委託業者を選定し、その後、公共交通が不便なエリアをモデルケースとして、ライドシェアに取り組む予定である。好評であれば、順次エリアを広げていく。のみバスもダイヤを変えたり、ルートを変えたりして、少しずつではあるが、利用者数が増えてきている。ただ、この時間にこの場所に行きたいということになると、公共交通では十分でないこともあるので、ライドシェアでカバーをしていきたいと思っている。

【参加者】 また情報共有していただけると嬉しい。

【参加者】 大和ハウスが福島グランパークの4万平米の広大な敷地に商業施設を立ち上げるという話が出ているが、それだけの情報しか報道されていない。先ほど移住定住は都市政策や都市開発がセットだということをおっしゃっていたが、同感である。都市政策や都市計画の中に、福祉の充実も当然入ると思っている。商業施設ができ、福島町やその周辺の宅地開発が行われている中で、関係人口や子育て世代、移住者の方が増えると予想されるが、今後、例えば、消雪装置や信号の設置、子育て支援センターをつくる等、福島周辺エリアで福祉面の政策があるのか知りたい。

【市長】 まず、消雪装置は地下水がないと作れないという大きな問題がある。また、新設して終わりではなく、メンテナンスをしていかなければならない。既設の消雪装置のメンテナンス費用だけで大変な金額がかかっており、新たに作ることは難しい。雪も昔に比べるとかなり少なくなっており、除雪車をなるべく多く投入することで、ご迷惑をおかけしないようにしている。

信号は能美市ではなく、石川県警が付けるものである。石川県警では、年に信号を新設する大まかな予算が決まっており、新しく付けるとなると、どこかの信号を削って付けることとなる。ただ、新しい道ができたという場合は例外であり、福島町に道ができたことにより交通量が増え、幹線道路に出られないということがあれば、信号を付けなければならない。実際、あのあたりに信号を1本付けてほしいという申請を能美警察署にしているが、なかなか順番が回ってこない。

公民館等を活用した福祉施策を考えている。福島町には立派な公民館があり、北部児童センターもある。それらを活用して、高齢者だけではなく、子育て世帯や子どもたちも公民館に集ってもらえるようにしようと考えている。具体的には、市内の約80を超える公民館にW i - F iを整備した。G I G Aスクール構想で小中学校の子どもたちは全員、クロムブックを持っているので、公民館に来て勉強をする。子育て世代の人たちは公民館でeスポーツ体験をする。高齢者の人たちは生き生きサロン等を公民館で行う。このように多世代の人たちが公民館に集まり、お互いにコミュニケーションをとることによって、全体の福祉の活動を推進、後押しをしていきたいと思っている。

【参加者】 私の家は核家族で、私も夫も市外に勤めており、子どもが寺井保育園に通って

いる。朝、7時半きっかりに子どもを預ける日も多く、できれば7時から開いてほしい。能美市のホームページを見てみると、以前にも同じような意見があったようだが、20年近くたっても実現できてないということは、結構難しいことなのか。

【市長】ご要望としてお聞きしておく。市内には15の保育園があり、保育士を確保することがなかなか今難しい。他にどれぐらいご要望があるか聞いて、もしたくさんいらっしゃるのであれば、何か応えられるように考えていきたいと思っている。

【参加者】行政として今やってはいけないことは、「大きなものを建てる」「宅地を造成する」「企業のためにお金を使う」ことであると思っている。能美市では、保育園が統合されて、旧保育園の建物が空き家となっている。旧保育園の立派な建物をどうするのか聞きたい。

全国的にあまりアカデミックな場所がないと思っている。コミュニティセンターや保育園で空いている施設を利用して、お金を使わずに教える人と子どもたちを集めて、教室を開くと良いのではないか。のみバスを使って市内をくまなく毛細血管のように移動できるようにし、そういう教室をあわせて作れば、より良くなると思う。

【市長】遊休施設の活用は行っているが、危険で中に入れない等の理由で活用できていない施設もある。根上総合文化会館や寺井地区公民館、辰口福祉会館は、文化団体の練習や様々な教室でほとんど予約が埋まっている状態である。市民の皆さんから施設をもっと増やしてほしいと言われており、できるだけいろいろな施設を活用している。

【参加者】教室を開催するために能美市の公共施設を借りようとしたが、料金が高い。

【市長】そんなに高くないとは思う。東京に比べればかなり安いのではないかな。

【参加者】確かに東京に比べれば賃料は安いですが、東京は教室への参加費用が1万円でも参加者がいるが、こちらでは千円に費用を設定しても参加者がいない。

【市長】担当部署に相談してほしい。

【参加者】市長がもし市民として、能美市に要望を出すとすれば、どのような要望を出されるの聞きたい。

【市長】難しい質問である。今は、やはり能登のことをすごく考えている。1月1日の朝、晴天で白山も綺麗に見え、令和6年は多分良い年になると思っていたが、午後4時10分に大きな地震が起きた。能美市も大きな被害を受けたが、能登のことを思うと本当に辛い。

何回か地震の後に能登へ行ったが、本当に現実なのかと思う状況であった。

市民の皆さんが安全安心に暮らせることが一番であり、それを実現するためにもっと取り組まなければならないと強く思っている。例えば、市内に初めて津波警報が出て、海沿いの人たちが丘陵地に避難され、渋滞がおきた。もし同じようなことがあっても、そうならないようにどうすれば良いか考えている。また、一昨年前に大雨が降り、市内にも大きな被害が出た。同じような雨が降っても同じような被害が出ないようにするためには、どうすれば良いのか。自然災害に対して、もっとしっかり取り組んでいかななくてはならないと、今年の地震を受けて改めて強く思っている。

【参加者】前回、市長の政治信条をお聞きしたら、即座に市民ファーストであるとおっしゃったが、町内会の役員と一時間懇談して、市民の声を聞いたと考えるのは大きな勘違いである。もっと市民の生の声を聞くために、今日のようなタウンミーティングを1年に一度ではなく、もっと定期的に、しかもフリートーキングで行えるようにしてほしい。

お金を使わない将来構想プロジェクトを実行してほしい。何かを作るのではなく、何かをしないということも政治家としての大きな決断だと思う。例えば、今、金沢大学跡地の丘陵地帯を公社が買い占めているが、これは絶好のチャンスである。ニュータウンを作るのではなく、そのまま保全し、自然公園として残す。遊歩道を地元の木材を使って整備したり、バイオトイレを作ったりと最小限の手入れをすれば、大きな観光資源となり、日本中の注目を浴びることとなる。少ないお金で、できるだけそういった方向となることを期待する。

市の職員や学芸員はもっと現場に出て、市の現状を見てほしい。そうすれば、このまちの魅力がたくさん見つかると思う。能美市の大きな観光資源として、秋常山古墳や水辺プラザがある。日本有数の資源である秋常山古墳は、いつ行っても人がいない。一方、陶芸村まつりでは大混雑が起きている。そういうイベントも大事だが、あまり普段気がつかない観光資源を大事にしてほしい。

【市長】町会長さん・町内会長さんは、その町の代表として、皆さんそれぞれの町のご要望やご意見をしっかり言われている。

大規模なものをタウンミーティングといっているが、既に5名から10名ぐらいの人たちを対象に、市民の皆さんと意見交換をする「能ん美りカフェトーク」も行っている。

職員については、私は能美市の職員は県内19市町の中で一番現地現場に行っていると思

っているので、ぜひご理解をいただきたい。

5) 閉会